

パラレルモダンワークショップ

「都美セレクション グループ展 2022 たえて日本画のなかりせば:東京都美術館篇」 出品作品リスト

Parallel Modern Workshop

Group Show of Contemporary Artists 2022

If there were no Japanese Painting in Japan : version of Tokyo Metropolitan Art Museum List of Works

会場:東京都美術館 ギャラリーA

会期:2022(令和4)年6月11日(土)~7月1日(金)

主催:パラレルモダンワークショップ、

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館

助成:公益財団法人朝日新聞文化財団

[パラレルモダンワークショップ]

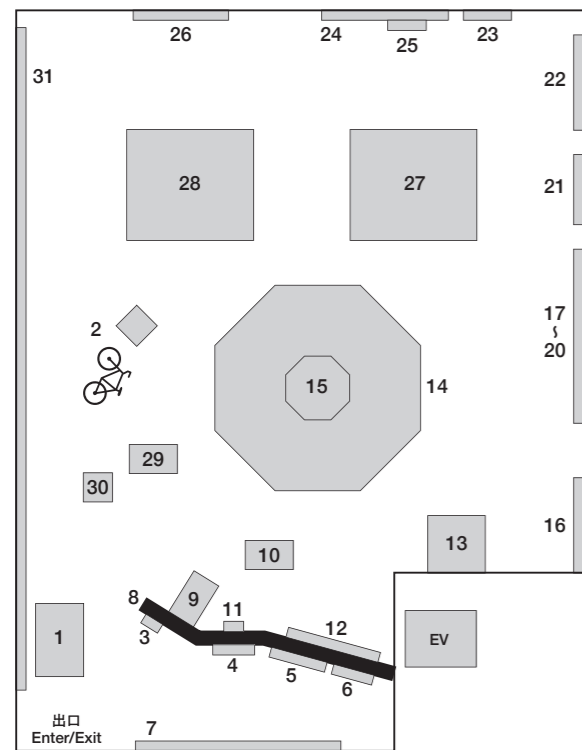
出品作家:泉桐子、大平由香理、尾花賢一、親指姫、金子富之、金子朋樹、菊地匠、硬軟、春原直人、多田さやか、谷保玲奈、長沢明、中村ケンゴ、ペリーマキコ、歩火、山下和也(ちやのある Le Cha noir)、山本雄教

キュレーター:小金沢智

制作協力:会津型研究会、荒達宏、上領大祐、國友勇吾、弦間康仁、笹谷遼平、島田隆一、杉原出雲、鈴木一成、関野圭一郎、塚田めぐみ、西澤諭志、山口明子、吉江淳、吉岡直将

ビデオグラファー:岡安賢一

グラフィックデザイナー:丸山晶崇



No.	作家名	Artist	作品名	Title	製作年(西暦) Date	技法・素材	サイズ(cm)／縦×横×奥行き
1	親指姫	Thumbelina	虎狼鯨商店	Ko-Ro-Na-mazu Shop	2021	ミクストメディア	220×250××160cm
2	親指姫	Thumbelina	鯨公園:虎狼鯨編	Namazu Park : Ko-Ro-Na-mazu Version	2022	ミクストメディア	可変
3	楊斎延一	Yosai Nobukazu	内国勲業博覧会 上野公園一覽	National Industrial Exhibition view of Ueno park	1890	多色摺り木版画	36.0×70.4cm
4	パラレルモダンワークショップ 編集:岡安賢一、撮影:岡安賢一、 國友勇吾、笹谷遼平、島田隆一	Parallel Modern Workshop, Okayasu Kenichi, Kunitomo Yugo, Sasatani Ryohei, Shimada Ryuichi	「たえて日本画のなかりせば:上野恩賜公園篇」記録映像 [山下和也(ちやのある Le Cha noir)版]	Document Film of "If there were no Japanese Painting in Japan : version of Tokyo Metropolitan Art Museum" ver. YAMASHITA Kazuya(Le Cha noir)	2022	映像	4分33秒
5	中村ケンゴ	Nakamura Kengo	大日本帝国の首相	Prime Ministers of the Empire of Japan	2022	木製パネルに和紙、岩絵具、顔料、アクリル、樹脂膠	112×145.5cm
6	谷保玲奈	Taniho Reina	code	code	2022	紙本着彩、パネル	91×116.7cm
7	ペリーマキコ	Makiko Berry	THE 21 DAYS	THE 21 DAYS	2022	墨、インク、水干絵具、鉛筆、糸、クレヨン、和紙、 布、油性インク	400×160cm
8	歩火(三瀬夏之介)	Bokka(Mise Natsunosuke)	移動式展示場「歩板」	Mobile gallery "Boppan"	2022	ミクストメディア	サイズ可変(275×220×120cm、 227×197×70cm、250×330× 120cmの3点組)
9	歩火(土田翔)	Bokka(Tsuchida Sho)	移動式直写台 其の一「小松均×土田翔÷2 の空間《武士の奥義》	Movable sketch car :part1 "Hitoshi Komatsu x Sho Tsuchida / 2 Rooms" 《Deep secrets of the Samurai》	2022	ミクストメディア	182×180×91cm
10	歩火(川合南菜子)	Bokka(Kawai Nanako)	移動式直写台 其の二「釣り針を投げる」	Movable sketch car : part2 "We throw out a hook and line"	2022	ミクストメディア	182×180×91cm
11	泉桐子	Izumi Toko	蓋	Lid	2022	和紙、墨、顔料、膠、蠟	33×24.2×3cm
12	春原直人	Sunohara Naoto	Mt.Ueno	Mt.Ueno	2022	アルミ複合版に出力	100×225×3cm (各100×75×3cm)
13	尾花賢一	Obana Kenichi	日出処/日没処	Sunrise place / Sunset place	2022	上野画、木材、机、木箱、ガラス瓶、紙、インク、 上野由来の画材	180×180cm
14	長沢明	Nagasawa Akira	幻影	Phantom	2022	和紙にニス、顔料、木製フレームにUVライト	380×540.9×540.9cm
15	多田さやか	Tada Sayaka	始まりと終わりの鐘が世界に大きく鳴り響くとき	When the opening and ending bells ring loudly in the world	2022	木にアクリル、岩絵具、金属、LED、モーター、 UVライト	255×148.5×148.5cm
16	大平由香理	Ohira Yukari	山水	Landscape	2022	和紙に顔料、墨、箔 他	450×350×3cm
17	硬軟	KO-NAN	天心ハイスクール野球部-fence&motto	TENSIN high school baseball club-fence&motto	2022	ミクストメディア	220×500×5cm
18	硬軟	KO-NAN	ロックシェイカー(群青)	rock shaker-Ultramarine	2022	オキュバイドジャパン製の塩胡椒入れ、岩絵具	サイズ可変
19	硬軟	KO-NAN	ロックシェイカー(赤)	rock shaker-Red	2022	オキュバイドジャパン製の塩胡椒入れ、岩絵具	サイズ可変
20	硬軟	KO-NAN	天ハイボール	TENSIN high ball	2017	ボール、岩絵具	サイズ可変
21	パラレルモダンワークショップ 編集:岡安賢一、撮影:岡安賢一、 國友勇吾、笹谷遼平、島田隆一	Parallel Modern Workshop, Okayasu Kenichi, Kunitomo Yugo, Sasatani Ryohei, Shimada Ryuichi	「たえて日本画のなかりせば:上野恩賜公園篇」記録映像完全版	Document Film of "If there were no Japanese Painting in Japan : version of Tokyo Metropolitan Art Museum"	2022	映像	65分27秒
22	金子朋樹	Kaneko Tomoki	富嶽山界混濁曼荼羅図-転位-	Mixed mandala map at the foot of Mt. Fuji -Dislocation-	2022	高知麻紙、墨、顔料、箔、金泥	484×364cm
23	山本雄教	Yamamoto Yukyo	One cup drawing -symbol-	One cup drawing -symbol-	2022	わら半紙、カップ酒、脚付黒板	177.4×120×50cm
24	山本雄教	Yamamoto Yukyo	Blue mountain	Blue mountain	2022	ブルーシート、ラッカー絵具	345×445cm
25	中村ケンゴ	Nakamura Kengo	平成の首相	Prime Ministers of the Heisei Era	2022	木製パネルに和紙、岩絵具、顔料、アクリル、 樹脂膠	50×72.7cm
26	中村ケンゴ	Nakamura Kengo	鏡の国の列島	Archipelago in the Looking Glass	2022	木製パネルに和紙、岩絵具、顔料、アクリル、 インク、樹脂膠	114×300cm
27	山下和也 (ちやのある Le Cha noir)	Yamashita Kazuya (Le Cha noir)	上野恩賜公園出開帳霊場巡り物見遊山 (東京都美術館篇) 仮本堂	The pilgrimage's journey to Ueno Park@Tokyo metropolitan art museum, Le Cha noir Temporary main hall	2022	カラーコーン、コーンバー、テント、レジャー シート、ダンボール、ガムテープ、安全ロープ、 ナイロン、食品サンプル、陶器皿、折り畳み椅子、 木、石	160×350×350cm
28	山下和也 (ちやのある Le Cha noir)	Yamashita Kazuya (Le Cha noir)	上野恩賜公園出開帳霊場巡り物見遊山 (東京都美術館篇) 仮歴史資料館	The pilgrimage's journey to Ueno Park@Tokyo metropolitan art museum, Le Cha noir temporary history museum	2022	展示ケース、彫刻台、竹、レジャーシート、安全 ロープ、ガムテープ、紙、プラスチック、ダンボ ール、粘土、張り子、陶芸、漫画、ステンシルほか	250×400×350cm
29	菊地匠	Kikuchi Takumi	Adriana	Adriana	2022	ベニヤ、アクリル絵の具、アクリル板	130×60×17cm
30	菊地匠	Kikuchi Takumi	Adriana 2	Adriana 2	2022	ベニヤ、アクリル絵の具、アクリル板	90×30×30cm
31	金子富之	Kaneko Tomiyuki	カリ・ユガ記	kaliyuga Record	1992-2022	ペン、鉛筆、透明水彩、墨、複写機、雲肌麻紙、洋紙	266×2150cm

「たえて日本画のなかりせば：東京都美術館篇」鑑賞の手引き

1. 本展冒頭「ご挨拶文」をご一読ください。

2. 「パラレルモダンワークショップ」(Parallel Modern Workshop)は、近代(modern)の並行世界(parallel)への想像力を通し、近代化を経た現代の捉え直しを試みる思考実験を行う研究会(workshop)です。日本の近代における「ありえたかもしれない並行世界」を、主に美術の側面から設定し、その設定に基づいたフィールドワーク・トークイベント・展覧会等を行うことで、現在の私(たち)の表現・歴史・制度を再考することを目的に、2021年4月、結成しました。作家、キュレーターが、それぞれの思いのもと、必ずしも「グループ」として統一的にまとまることなく、参加しています。

3. 本展「たえて日本画のなかりせば：東京都美術館篇」(以下、東京都美術館篇)は、楊斎延一〈内国勲業博覧会 上野公園一覽〉(1890年)から着想を得、2021(令和3)年6月5日、パラレルモダンワークショップのメンバー18組20名が、そのアクションを、メンバー間でも基本的に共有せず、上野恩賜公園内でゲリラ的に行った「たえて日本画のなかりせば：上野恩賜公園篇」(以下、上野恩賜公園篇)に続く展開として企画したものです。

4. いずれも、以下をコンセプトの原理としています。すなわち、1890(明治23)年、「もしこのとき上野公園に、東京美術学校(現・東京藝術大学)がなかったならば。ここで、日本画が教授されなかったならば。すなわち、東京美術学校由来の日本画がなかったならば、いま、日本画はどのようなものとなっていたか。東京で。あるいは、日本で」。

5. ただ、上野恩賜公園篇と東京都美術館篇は、実施会場面における野外と屋内という大きな違いがあります。そのため、本展は、上野恩賜公園篇でのアクションを発想の起点としながら、展覧会として形作るべく構想されました。

6. 東京都美術館は、旧称を東京府美術館と言い、1926(大正15)年に開館。本展会場のギャラリーAは、当初は彫刻を展示する場所として設計された空間であり、上野恩賜公園篇のコンセプトを継承する東京都美術館篇は、この「絵画のために作られた空間ではない場所」で実現することが重要でした。

7. 東京都美術館篇では、上野恩賜公園篇の2点の記録映像―会場冒頭の〈「たえて日本画のなかりせば：上野恩賜公園篇」記録映像[山下和也(ちやのあるLe Cha noir)版]〉、会場終盤の〈「たえて日本画のなかりせば：上野恩賜公園篇」記録映像完全版〉―で挟み込むイメージで全体を構成し、すべての作家が本展のための新作を制作しています。いずれの作品も、「パラレルであること」

を重視し、各作家が本展のコンセプトを踏まえた上で制作されました。本展におけるキュレーター(小金沢智)は、主な役割として、個々に制作されたそれら作品群のとりまとめを行っています。

8. 本展は、ギャラリー Aを上野恩賜公園に見立てて展示構成を行いました。特に、これらの作品―①親指姫〈虎狼鯨商店〉②三瀬夏之介〈移動式展示場「歩板」〉③長沢明〈幻影〉④多田さやか〈始まりと終わりの鐘が世界に大きく鳴り響くとき〉―は、上野恩賜公園内で(過去・現代において)見受けられるモチーフ―①屋台②茶屋③④不忍池辯天堂(六角堂)―から着想を得て制作されたものです。

9. 冒頭の「茶屋」で、中村ケンゴ〈大日本帝国の首相〉と(日本の国花「桜」がモチーフの)谷保玲奈〈code〉が隣り合いながら、その向かいに、COVID-19感染症拡大防止対策である隔離期間(21日間)をモチーフとするペリーマキコ〈THE 21 DAYS〉が展示されるさまは、本展が射程とする「時代」(近現代)、そして主題における「公私の遠近」を象徴的に示しています。

10. そして(本展受付を兼ねる)「屋台」と「茶屋」を抜けると、その場は「不忍池辯天堂」(六角堂)から構造のヒントを得た長沢明の作品を中心として、全体が上野恩賜公園に見立てられながらもさまざまな「風景」が広がっています。作家が「移動式直写台」と呼ぶ2点の作品は、土田翔のそれは山形との、川合南菜子のそれは福島との強い関係性を結びながら、距離を隔てた上野との交歓を試みるものに違いありません。また、長沢の作品の内部に展示している多田の作品は、作家にとっての「理想郷」を描くものであり、それは常時、ゆるやかに回転しています。

11. 泉桐子によるサイズとしてはささやかな作品〈蓋〉では、「日本画」という「造語」に関わる人物・物事が、〈内国勲業博覧会 上野公園一覽〉の部分も重ねられながら、描かれ、切り分けられ、繋ぎ直され、固められました。

12. 上野という場所・歴史から特にインスピレーションを得ているのは、春原直人〈Mt.Ueno〉、尾花賢一〈日出処/日没処〉、山下和也(ちやのあるLe Cha noir)〈上野恩賜公園出開帳 霊場巡り物見遊山(東京都美術館篇) 仮本堂〉〈上野恩賜公園出開帳 霊場巡り物見遊山(東京都美術館篇) 仮歴史資料館〉。春原は「上野のお山」=上野恩賜公園を歩いた過程を「登山」と見立て作品を制作し、尾花は「上野画」なる独自の絵画様式を創出し、山下は上野恩賜公園篇における「巡礼」の模様を作品化しました。

13. 他方、大平由香理〈山水〉、硬軟〈天心ハイスクール野球部 - fence&motto〉他3点の作

品は、上野恩賜公園篇でのアクションをベースとしながら、「たえて日本画のなかりせば」の影の主役とも言える、思想家・岡倉天心(1863-1913)の仕事モチーフとする作品となっています(岡倉は、もし東京美術学校がなかったら、何をしていたでしょうか?)

14. それら岡倉天心=近代日本画と大いなる関係を持つ作品群と、古代ローマの建築ヴィッラ・アドリアーナ(1999年世界遺産登録)をモチーフとする菊地匠〈Adriana〉〈Adriana 2〉は、時代と土地を隔てながら、古代日本への憧憬を岡倉その人が抱いていたという点でシンクロするかもしれません。

15. さて、「(洋画)に対し、「日本画」という言葉・概念が創出される)「近代」に成立した日本国家へと視線を投げかけるのは、中村ケンゴ〈鏡の国の列島〉と山本雄教〈One cup drawing -symbol-〉。時代によって国家としての範囲を変える「日本地図」を主なモチーフとする中村の作品と、ワンカップ酒を「画材」として用い、明治天皇の御真影をモチーフとして臆げないイメージを表出させた山本の作品が、(若干の距離を隔てながらも)同じ壁面に展示されます。

16. 例えば日本画家・横山大観(1868-1958)の作品群に代表される、「日本画」にとってさまざまな点から重要なモチーフである富士山。山本雄教と金子朋樹はその内容を現在の視点から換骨奪胎するようにして、作品―山本雄教〈Blue mountain〉、金子朋樹〈富嶽山界混淆曼荼羅図・転位-)―を制作し、(ほぼ)実際の富士山が方角上位置する壁面に展示しました。ブルーシートを支持体とする〈Blue mountain〉の下に、さりげなく展示されている中村ケンゴ〈平成の首相〉にもご注目ください。

17. 一方、まるで「近代」とも「日本画」とも無関係に、1992(平成4)年から作家が延々と30年続いているドローイングを繋ぎ合わせた金子富之〈カリ・ユガ記〉を、20メートルを超える壁面のほとんどすべてを使って展示しています。

18. 「たえて日本画のなかりせば」に対する「個々の応答」としての作品と、その複合体としての展覧会。どうか、イメージしていただきたいと思っています。ありえたかもしれないパラレルな世界へのいつきの没入がなされると仮定して、そのはてに、私たちは現在への新しい想像力を手に入れることができるでしょうか? そして、それはどのようなものでしょうか?

文責：小金沢智(パラレルモダンワークショップ／キュレーター)